

「子宮頸がん予防検定（初級編）」を受けた延べ1,493人の答えから見えたこと

子宮頸がん予防について
知られていること（高い正答率）、
知られていないこと（低い正答率）

検定を受けた人

1,493人

問題の数

20問

高い正答率の問題

5問

低い正答率の問題

4問

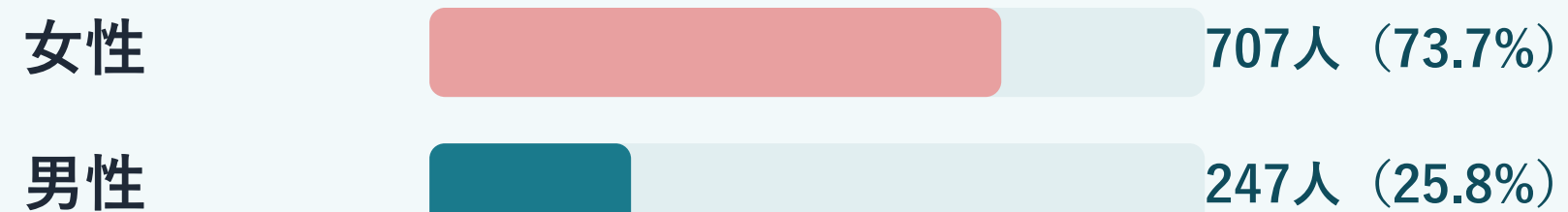
計算のしかた

延べ受検者数を分母とし、同一人の複数回受験もカウントされている。最後の解析だけは受験回数別の解析。

受けた人は誰か（1）男性・女性

性別を答えた959人のうち、およそ4人に3人が女性。

性別（答えた959人中で）



男性（247人）の成績

74.8点（平均） 合格した人 72.5%（179人）

女性（707人）の成績

67.8点（平均） 合格した人 63.1%（446人）

男性はどんな人が多かったか

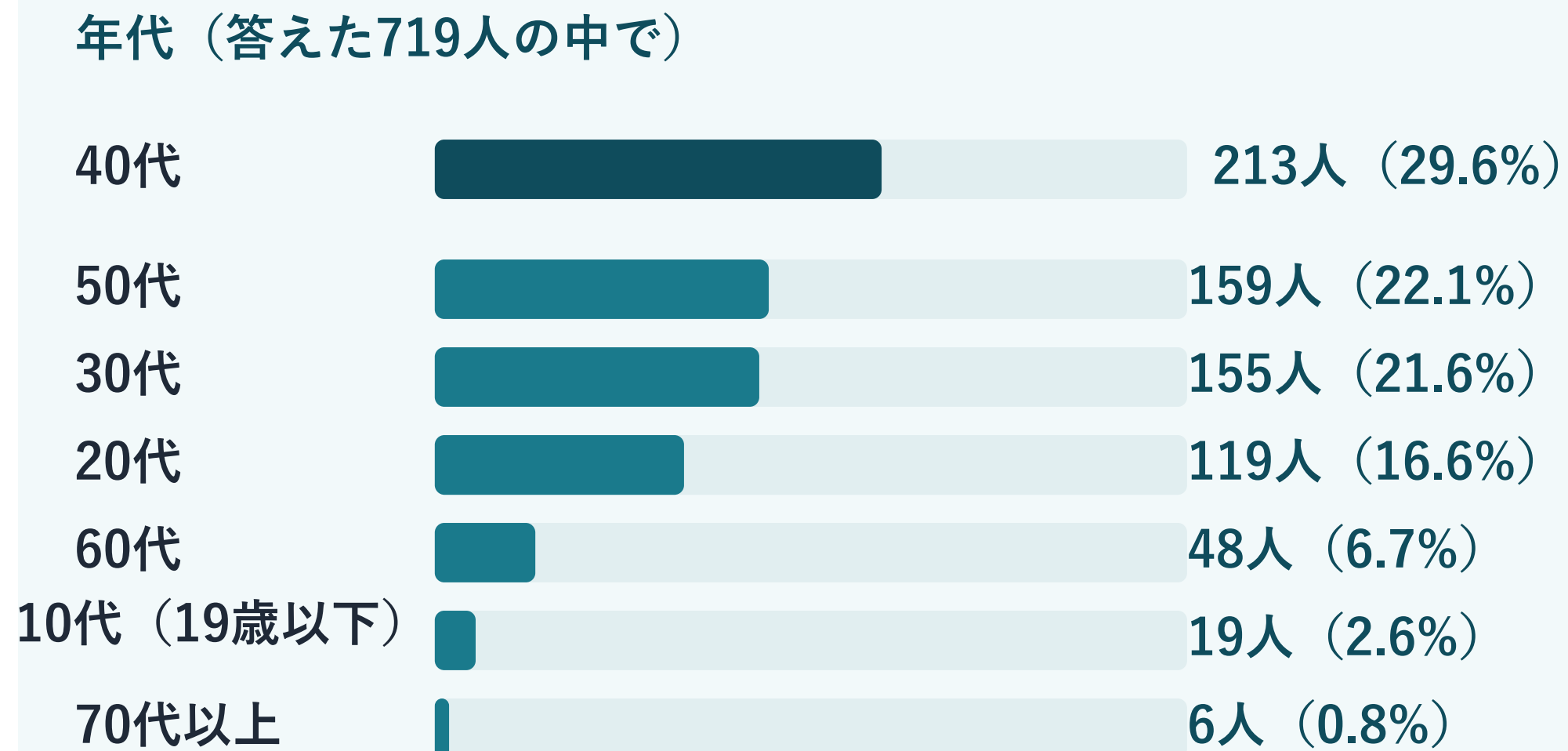
会社員など 50.2% / 医療の仕事 29.0%

ここがポイント

男性の方が成績が良かった。人数は少ないが、関心の高い男性が受けたためか。

受けた人は誰か（2）年代

年齢を答えた719人の平均は42.05歳。30代から50代が中心。



合格した人の割合（多い順）

20代 68.9%
10代 68.4%
50代 67.3%
60代 66.7%
40代 65.7%

いちばん低かったのは30代

30代 56.1%

子育て世代なのに、成績が最も低い

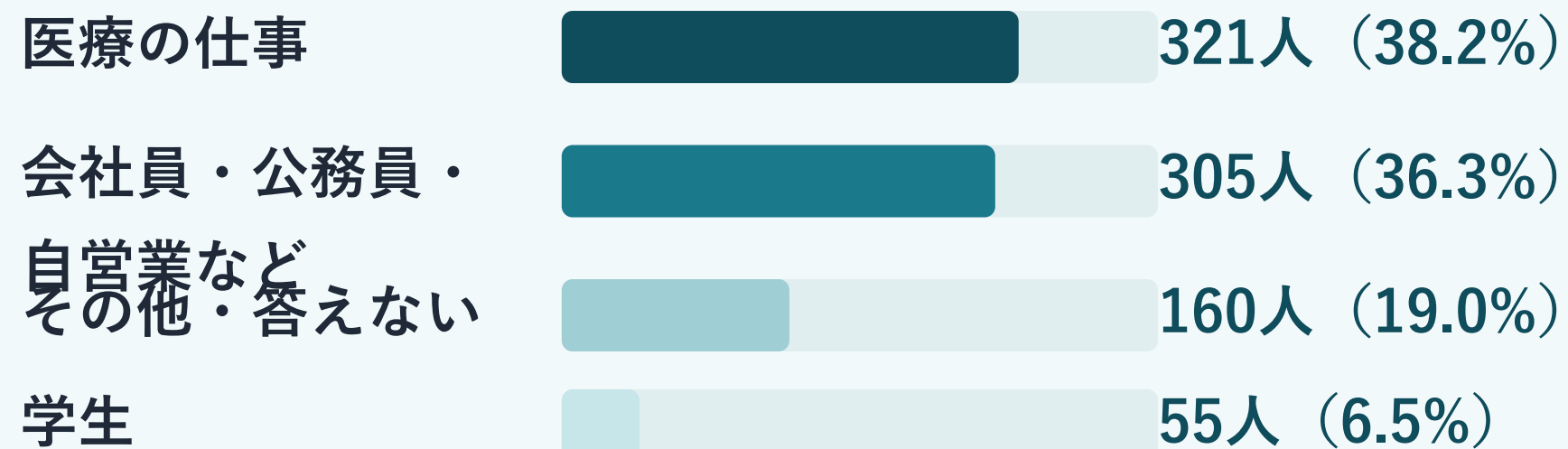
ここがポイント

30代から50代で全体の73.3%。10代・20代は合わせて138人（19.2%）。

受けた人は誰か（3）仕事

仕事を答えた841人のうち、医療の仕事の人と一般の会社員などがほぼ同じ数。

仕事（答えた841人中で）



1,493人全体で見ると、医療 21.5%、一般 20.4%、その他 10.7%、学生 3.7%

会社員など

合格 平均73.2点

医療の仕事

合格 平均69.7点

学生

合格 平均65.9点

その他・答えない

合格 平均61.8点

医療の仕事の人：女性 243人、男性 63人

受けた人は誰か（まとめ）

男女で、受けた人の顔ぶれが違う。

男女それぞれ、どんな仕事の人が多いか
女性597人・男性217人が仕事を答えた

女性



男性



年代ごとの顔ぶれ

若い世代と働く世代で中身が異なる

- ・ 10代・20代は学生や若い社会人
- ・ 30代～50代は会社員と医療の仕事がほぼ半々

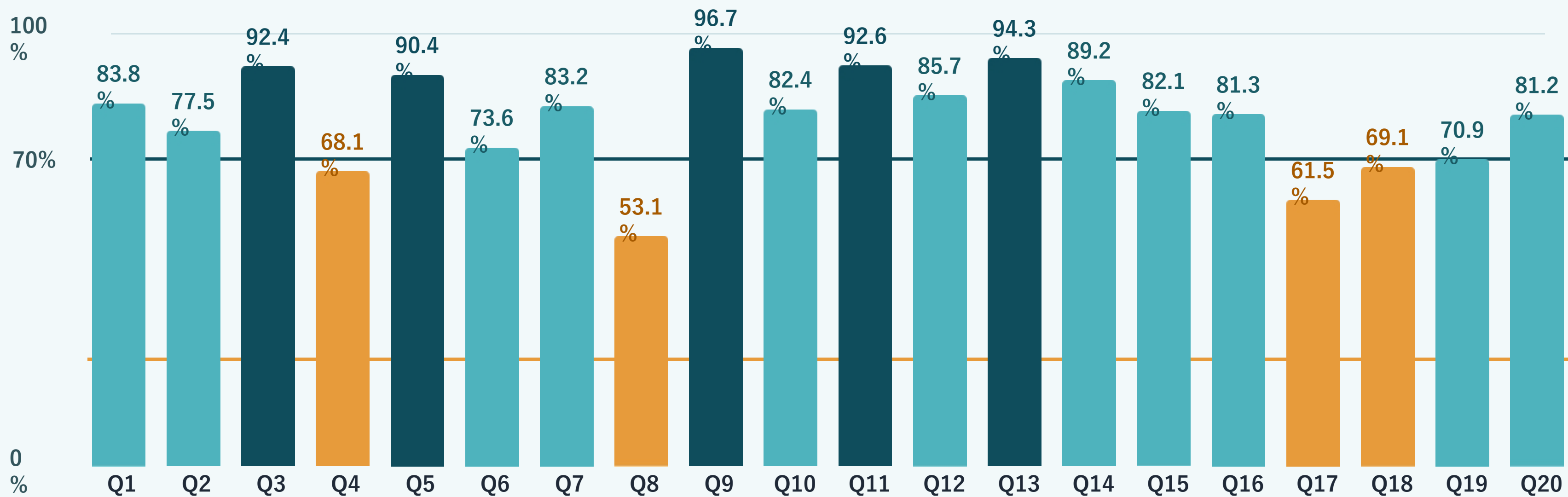
ここがポイント

女性は医療の仕事の人が最も多く、男性は会社員などが半分。

20問すべての結果

正しく答えられた人の割合。

濃い青は正答率9割以上、オレンジは正答率7割以下



9割以上の正答率（5問）

7割以下の正答率（4問）

※各問題の割合は、答えなかった人・途中でやめた人を除き、その問題に答えた人だけで計算

よく知られていたこと（正答率9割以上・5問）

間違えた人がごくわずか。検診とワクチンの基本は、すでにしっかり伝わっている。

Q9 ワクチンと検診の役割について正しいものは

96.7%

正しく答えた人

- | | | | |
|------|--------------------------------|-------|--------|
| 正解 C | ワクチンは未感染の人への予防、検診は感染後も早期発見に役立つ | 96.7% | 1,236人 |
| 誤答 B | どちらか一方を実施すれば良い | 2.4% | 31人 |
| 誤答 A | ワクチンだけで完全に防げるので検診は不要 | 0.9% | 11人 |

Q13 子宮頸がん検診は、実際どんな検査か

94.3%

正しく答えた人

- | | | | |
|------|--------------------------|-------|--------|
| 正解 A | 検診台で子宮頸部から細胞を取る1～2分程度の検査 | 94.3% | 1,218人 |
| 誤答 C | 採血によってHPVのDNA検査をする | 4.1% | 53人 |
| 誤答 B | CT／MRIによる15分程度の画像検査 | 1.6% | 21人 |

Q11 閉経したあとも、検診は奨められるか

92.6%

正しく答えた人

- | | | | |
|------|----------|-------|--------|
| 正解 A | 奨められる | 92.6% | 1,191人 |
| 誤答 C | 個人の考えによる | 4.3% | 55人 |
| 誤答 B | 奨められない | 3.1% | 40人 |

Q3 国が推奨する検診の開始年齢は何歳か

92.4%

正しく答えた人

- | | | | |
|------|-----|-------|--------|
| 正解 A | 20歳 | 92.4% | 1,191人 |
| 誤答 B | 30歳 | 6.3% | 81人 |
| 誤答 C | 40歳 | 1.3% | 17人 |

Q5 抗体価がより上昇するのはどちらか

90.4%

正しく答えた人

- | | | | |
|------|-----------|-------|--------|
| 正解 B | HPVワクチン接種 | 90.4% | 1,161人 |
| 誤答 C | どちらも同程度 | 7.3% | 94人 |
| 誤答 A | HPV自然感染 | 2.3% | 29人 |

すでに定着している言葉

検診は20歳から
検診は数分、細胞を採るだけ
閉経後も必要
ワクチンと検診の両方で防ぐ

知られていなかったこと（正答率7割以下・4問）

間違えた人が何を選んだかまで見ると、誤解の中身がはっきり分かる。

Q8 男子がワクチンを受ける目的として、当てはまらないものはどれか

53.1%

正しく答えた人

正解 C 精巣がんの予防

53.1% 688人

誤答 B 相手への感染を減らす

28.2% 365人

誤答 A 肛門がんの予防

18.8% 243人

Q17 HPVは子宮頸がん以外に、どのがんの原因になるか

61.5%

正しく答えた人

正解 C 肛門がん

61.5% 794人

誤答 B 子宮体がん

32.5% 420人

誤答 A 乳がん

6.0% 78人

Q4 すでに感染している人が接種すると、ウイルスは追い出せるか

68.1%

正しく答えた人

正解 B 効果なし

68.1% 883人

誤答 C ある程度あり

23.4% 303人

誤答 A ほぼ完全な効果

8.5% 110件

Q18 一生のうち一度でもHPVに感染する女性はどのくらいか

69.1%

正しく答えた人

正解 C 約80%

69.1% 900人

誤答 B 約50%

16.7% 218人

誤答 A 約20%

14.2% 185人

誰が間違えやすかったか

正答率の低い4問は、いずれも女性の方が正解が少なかった。

男女の差（4問すべて男性の方が正解が多い）

問題	女性	男性	差
Q8 男子接種の目的	48.2%	63.2%	15.0ポイント
Q17 他のがん	56.7%	68.4%	11.7ポイント
Q4 感染後の効果	67.7%	74.6%	6.9ポイント
Q18 感染する割合	67.3%	74.9%	7.6ポイント

Q17では、女性の 36.2%（約3.6人に1人）が「子宮体がん」を選んだ。男性は24.9%。

30代がいちばん低い
Q8 37.4% Q17 42.6%
どちらも全年代で最も低い

学生も低い
Q8 44.4% Q17 48.9%
男子接種の意味が届いていない

50代は高い
Q17 60.4% Q18 69.2%
全年代でトップクラス

仕事による差（4問の正解した人の割合）

仕事	Q8	Q17	Q4	Q18
医療の仕事	60.4%	68.5%	62.3%	62.0%
会社員など	54.5%	57.7%	61.6%	64.9%
学生	44.4%	48.9%	58.2%	52.7%
その他・答えない	37.0%	45.7%	53.1%	52.5%

学生のうち Q17で 40.0%が「子宮体がん」、11.1%が「乳がん」と答えた。
Q8では学生の 33.3%が「相手への感染を減らす」を当てはまらないと答えた。

ここがポイント
最も情報を必要とする女性・子育て世代（30代）・学生ほど、正解が少ない。届けたい相手に届いていない。

知識不足（誤解）はつながっている

ひとつの誤解が、別の誤解と関連している

Q17 と Q8 の関係

69.8% と **19.2%**

Q17（他のがん）を正しく答えた人は、
Q8も 69.8%が正解。
Q17を間違えた人は、Q8の正解が 19.2%
まで落ちる。
両方を間違えた人は全体の 15.6%。

Q9 と Q4 の関係

29.4%

「ワクチンと検診の両方が必要」を正しく
答えた 1,236人のうち、29.4%（およそ3
割）が、感染後の効果については間違えた。

3問まとめて見ると

36.4% と **26.4%**

Q4・Q8・Q17の3問すべて正解した人は
36.4%。
3問すべて間違えた人は 26.4%。

この2問が、成績を大きく分けた

Q17（他のがん）

88.7点 対 47.9点

正解した人と間違えた人の差 40.8点

Q8（男子接種の目的）

88.8点 対 53.1点

正解した人と間違えた人の差 35.7点

この2問が分かるかどうかで、全体の理解度がはっきり分かれる。

説明はセットで

Q17（HPVは肛門がんの原因にもなる）

↓
Q8（だから男子も接種する）

↓
Q4（感染後に追い出す効果はない）

↓
Q9（だから検診も必要）

これから伝えるべきこと

相手によって、伝える内容を変える必要がある。

女性・子育て世代（30代～40代の女性）

「子宮頸がん」と
「子宮体がん」は別のもの

名前が似ているが、原因も予防のしかたも違う。まずこの違いから。

あわせて「男子の接種は、パートナーである女性を守ることににつながる」。

若い世代・学生へ

HPVは、男女どちらも感染するウイルス

女性が一生のうち一度でも感染する割合は約80%。
めずらしいことではない。

男子の接種は自分の肛門がんを防ぐことと相手を守ることの両方に意味がある。

広く一般の方へ

ワクチンは「治す薬」ではなく「防ぐもの」

すでに感染したウイルスを追い出す薬ではない。感染する前に備えるためのもの。

だからこそ、接種したあとも検診が必要になる。

説明のしかたの工夫

「HPVは肛門がんの原因にもなる（Q17）」→「だから男子も接種する（Q8）」をセットで。
「感染後に追い出す効果はない（Q4）」→「だから検診も必要（Q9）」を結びつけて説明。

まとめ

検診はすでに広く知られている。次に伝えるべきは「なぜ男子も接種するのか」と「ワクチンは防ぐためのものである」という2点。

受けるたびに、知識が増えていた

この検定は、知識を測るだけでなく、受ける人に知識を届ける役割を果たしていた。

対象：メールアドレスで同一人物と判定し、20問すべてに答えた回が2回以上ある 237人
(実人数 988人 のうち、複数回受け直した人は 318人 = 32.2%)

平均点の変化 (237人)

はじめて受けたとき

62.6点

中央値 60点



最後に受けたとき

91.3点

中央値 95点

身についた知識 平均 +28.7点 (中央値 +30.0点)

一人ひとりの変化 (237人)

正答が増えた 227人

変わらない 6人

下がった 4人

95.8%の人が向上。

合格率 (70点以上)

最初 25.3%

最後 97.0%

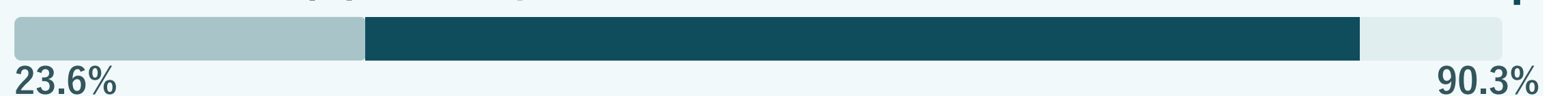
知られていなかったことほど、伝わった

啓発が最も必要だった4問で、最も大きく理解が進んでいた。

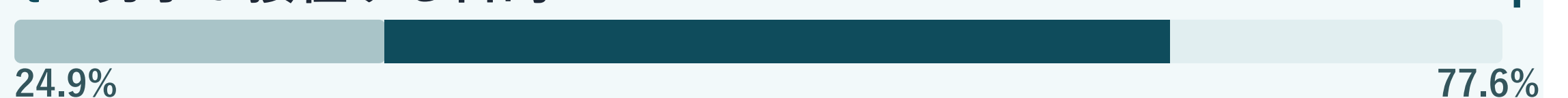
正答率の低かった4問の変化（237人）

薄い色＝はじめて受けたとき / 濃い色＝最後に受けたとき

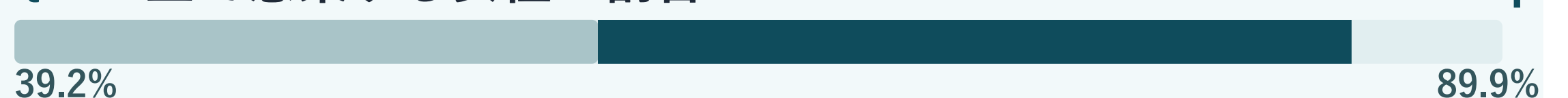
Q17 HPVが原因となる他のがん



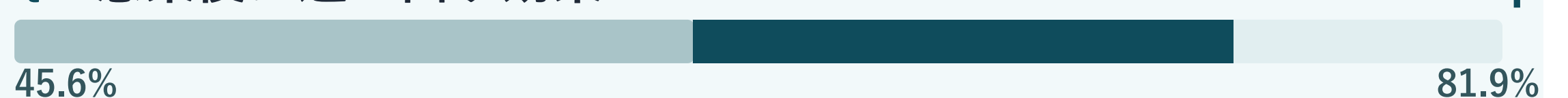
Q8 男子が接種する目的



Q18 一生で感染する女性の割合



Q4 感染後に追い出す効果



理解が進んだ幅の比較

知られていなかった4問

+51.6 pt

その他の16問

+23.0 pt

知識の穴が大きかったところに、最も強く働いた。

よく知られていた5問は、ほぼ動かない

Q9 93.7% ▶ 97.5%

Q13 90.7% ▶ 95.8%

Q5 83.5% ▶ 91.1%

全体が一律に上がったのではない。
知らなかった項目だけが埋まったという形。

この検定が最も強く啓発したのは、「男子接種の意義」「HPVと他のがんの関係」という、社会にいちばん届いていなかった知識。

この検定は「測る」だけでなく「教える」

受験そのものが啓発の手段として働いていた。合格者を選ぶ試験ではなく、知識を届ける仕組み。

① 受けるたびに、正しい知識が身についた

237人が 62.6点 ▶ 91.3点（平均 +28.7点）。正しく理解できた人は 25.3% ▶ 97.0%。227人が向上し、下がったのは4人。

② 届いていなかった知識ほど、大きく伝わった

知られていなかった4問 +51.6pt に対し、その他16問は +23.0pt。全体が一律に上がったのではなく、知識の穴が埋まった。

③ 日をあけて受け直した人でも、身についていた

1日以上あけて受け直した22人：67.5点 ▶ 85.0点、正しく理解できた人 36.4% ▶ 90.9%。

④ 3人に1人が、自分から受け直した

実人数988人のうち 318人（32.2%）。強制ではなく、本人の意思で学び直しに向かっている。

結論

この検定は、受けること自体が予防知識の啓発になることを示した。20問に答える体験が、正答率の低い知識を社会に届ける手段として機能している。

まとめ 子宮頸がん予防検定（初級編）受験者データから分かった3つのこと

延べ受験 1,493 件 実人数 988 人 出題 20 問 合格 70 点以上 最終合格率97% 期間 2026年4月～8月

検診の基本は、
すでに広く伝わっている

「検診は20歳から」「数分の細胞採取」
「閉経後も必要」「ワクチンと検診の両方
で防ぐ」は 9割以上が正解。

HPVワクチン男子接種の意義
と他のHPV関連がんは、まだ、
理解が乏しい

男子接種の目的は 53.1%、HPVが肛門がん
の原因になることは 61.5%。子宮体がんとの
混同も目立つ。

受験そのものが、
啓発として働いた

複数回受けた237人は 62.6点 ▶ 91.3点。
合格者は 25.3% ▶ 97.0% に。

これから重点的に伝えること

女性・子育て世代へ

「子宮頸がん」と「子宮体がん」は
別のもの。名前が似ていても、原因
も予防も異なる。

若い世代・学生へ

HPVは男女ともに感染する。男子接
種は自分と相手の両方を守る。

広く一般の方へ

ワクチンは治す薬ではなく防ぐため
のもの。接種後も検診が必要。

結論

検診は伝わった。次は「HPVワクチンの真の意義、男子も接種、他のがんも予防」を伝えること。
そして検定を受けてもらうこと自体が、子宮頸がん予防の有効な啓発手段となる。